

## ◆MMWIN システムの操作方法が変更となりました

平成 30 年 3 月 17～18 日に MMWIN システムのリプレイス(更新)を実施致しました。  
皆様のご協力を御礼申し上げます。  
このシステムリプレイスに伴い、ID 紐付けや情報参照の操作方法が変更となりました。各種操作マニュアル等は MMWIN システムのポータル画面からダウンロード出来ますので是非ご利用ください。

ポータルTOPから  
「マニュアル集」をクリック!

参加施設一覧  
マニュアル集  
患者さん向けパンフレット  
MMWIN通信  
患者さん加入促進ツール

ポータルTOPから「マニュアル集」をクリック!

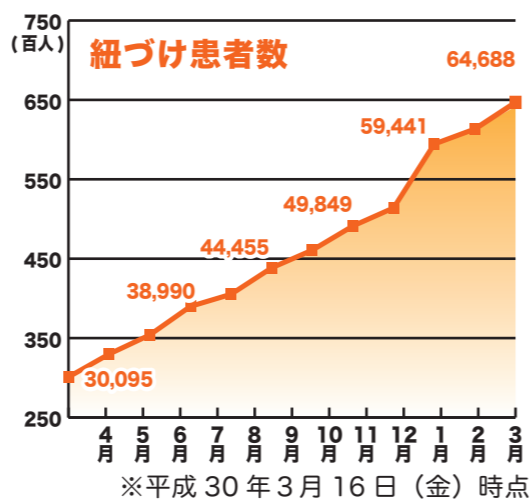
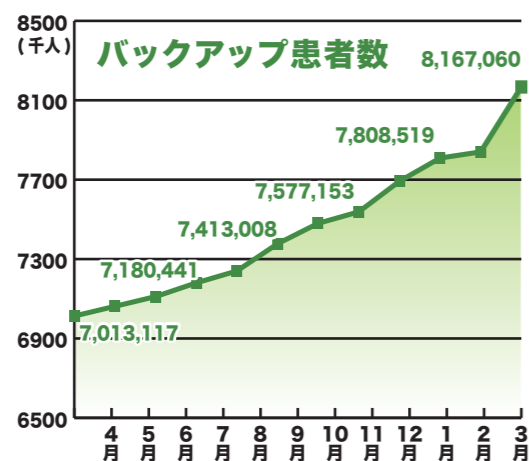
ポータルTOPから「マニュアル集」をクリック!

## 稼働状況

データで見る MMWIN の稼働状況です。

### データ推移

両データ共に、順調な増加傾向にあります。バックアップ患者数は前月比+39,497人、紐付け患者数は前月比+1,406人となりました。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大町1-5 宮城県医師会館 6階 URL: http://mmwin.or.jp  
サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp  
事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。  
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。  
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



エムエムウィン  
**MMWIN** 通信  
みんなのみやぎネット NEWS

仙台市

東勝山なかざわ内科・アレルギー科

仙台市青葉区 東勝山  
院長 中澤 秀喜 先生

## 1. MMWIN の活用事例を教えてください

当院は平成 12 年に開業して以来、地域のかかりつけ医、アレルギー専門医として診療に取り組んでおります。連携先は地域的に東北大学病院、JCHO、東北労災病院が多いです。MMWIN の活用に関しては、主に、肺炎や感染症などの急性期の患者様を他院へ紹介した際に、白血球数や炎症マーカー等の検査結果の変化を共有するために活用しています。



また、長期的な治療に必要なアレルギー疾患をお持ちの患者様が、呼吸器科、小児科、皮膚科など他の診療科を受診された場合に、検査結果を共有できることの重要性を感じております。

## 2. 今後、活用したい連携機能はどのようなものですか？



この地域は、ご高齢の方が多くいらっしゃり、他の診療科を受診した後に来院されて「心臓が大きいと言われたんだよ。」「この前、骨折したんだよ。」「肺の検査をしたんだよ。」と教えてくれるのですが、ご高齢の方から詳細情報を伺うのは、なかなか難しいことがあります。

そのような場面で、画像連携を活用できれば、レントゲンやCT、MRIの情報を参照することで、心臓や肺の状態、骨折の箇所等を確認することができます。患者様からの情報では足りない画像情報等を得る事で、患者様の抱えている問題を知ることが出来ると思います。

## 3. MMWIN へ期待することを教えてください

一番期待したいことは、操作性の向上です。起動や画面遷移のスピードが速くなれば良いと思います。実際は、診察中に MMWIN 参照することは診察時間が長引くので現実的にはなく、診察終了後に気になる患者様の情報を閲覧しています。

次に、病診連携の際の手続きの簡素化です。病院の地域連携室との診察予約の連絡や紹介状のやり取りが MMWIN 上で簡単に出来れば良いと思います。

最後に、情報を共有する事で重複する検査を減らしたり、充実した検査設備のある施設の検査結果を参照したりする事で無駄な医療費を減らせればよいと期待しています。その事で社会的貢献ができればよいと思っています。



登米市

## ささはら総合診療科

登米市 迫町  
院長 笹原 政美 先生

### 1. 病診連携についての活用事例を教えてください



院長 笹原 政美 先生

現在当院での MMWIN 登録患者さんは15名ですが、東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台オープン病院、JCHO 仙台病院、石巻赤十字病院、大崎市民病院と連携しています。

非常に印象的な事例は、腰痛を訴えてきた患者さんを診察していた過程で MMWIN 登録患者であることに気がきました。しかし、病歴には他医療機関の受診歴はなく「MMWIN カードをお持ちのようですが、どこの病院で登録されましたか」と聞きましたら、「東北大学病院です」と話されました。「問診ではどこの病院にもかかってはもらえないとの事でしたが」「いいえ、私ではな

く息子が通院しているのです。息子は脳腫瘍による発語障害があり、その後事故で歩行障害にもなり私が介護しているのですが、大学病院から息子と私二人の MMWIN 登録を勧められ登録しました」との事でした。

息子さんは自分の夢を叶える為に米国に留学して国際資格を習得し、自分の望んだ仕事に専念しているときに発症し、米国の大学病院で治療を受けていたが効果がなく東北大学病院へ紹介され帰国しました。大学病院でも効果のある治療法は今の所無いとのことで経過観察の状態です。「息子の介護で腰を痛めたのでしょうか」と淡々と話す患者さんの心境を思うと、つい言葉を失ってしまいました。この事例より MMWIN に登録している患者さん本人の情報のやり取りだけでなく、患者さんのご家族やお世話をしている人が登録する事によって、患者さん周辺の情報や心境をより深く知る事が出来、患者さんに寄り添った医療活動に役立つことを改めて認識しました。

### 2. MMWIN 運用についてお聞かせ下さい



ささはら総合診療科

MMWIN の現状は患者さんの病状紹介、血液生化学検査値情報の共有が主で、画像に関してはコピー画像程度の低質画像でしたが、4月からCD画像よりもっと高質画像を提供する準備を進めているとのことです。これによりさらに詳細な情報を共有でき、患者さんの紹介や逆紹介もより迅速に、簡易に出来る事と思います。レ線、内視鏡、CT、MRI、MRA画像データが簡単に共有出来る事は私にとりましては願ってもない事ですし、多くの登録医も待ち望んでいたことと思います。

これにより MMWIN 運用に幅ができ新たな登録医も増えることだろうと思いますし、私自身もまだ未入会の先生方に MMWIN 運用の利便性について説明してあげようと思います。また当院来院患者さんは MMWIN 共通IDカード持参のみで紐付けしていない患者さんが半数程いますので、積極的に紐付けを勧め活用して行こうと思います。

### 3. 今後のMMWIN に期待すること または改善点などありましたらお聞かせ下さい

これからさらなる高齢化社会での MMWIN の果たす役割が重要になって来るであろうと思います。そのためには医療機関での情報の共有は勿論のことですが、介護・福祉・薬局・訪問看護等との連携・情報共有も大切なことですし、さらに行政側の積極的な参加も進めていかなければなりません。より充実した地域包括医療システム構築のための MMWIN の役割に非常に期待しております。宮城県全域のグローバルコミュニケーションと同時に地域単位でのローカルコミュニケーションの構築が大切です。当地登米市では市立の全病院・診療所が MMWIN に入会しましたので、これからは民間の病院・診療所・介護・福祉施設・薬局等への少しでも多くの参入を働きかけ、より密接な連携と情報の共有の為に MMWIN が活用されることを期待しております。

また、MMWIN 登録は患者さんばかりでなく、高齢化社会を考えると、現在医療機関にかかっていない人にも登録・紐付けを勧め、もし病気になったときには速やかに登録・紐付け医療機関への受診をしてもらうなど地域の人達に安心感を持ってもらえる事に期待しております。改善点としては画面の切り替えが少し遅い事と電カルのバージョンアップに対応が遅れることが気になりますので改善していただけたらと思います。

柴田郡

## 甲子調剤薬局

柴田郡 大河原町  
管理薬剤師 我妻 俊明 先生

今回は大河原町の甲子調剤薬局の管理薬剤師 我妻俊明先生に MMWIN の活用状況、かかりつけや薬剤師と MMWIN の関連性との期待についてお話をお伺いさせていただきました。

### 1. 現在の活用状況

昨年の4月から「みやぎ県南中核病院での加入ブース」開設後、患者さんからのカード提示が徐々に増えてきました。以前は1ヶ月1~2名程度の提示ではありましたが、現在では100名を超える患者さんが当局に紐付けをされています。

また患者さんへの服薬指導前に、病名・検査値・検査内容やアレルギー情報などを MMWIN システムより把握することができることにより、患者さんに寄り沿った指導ができています。その中でも特に感じるのは、検査結果の用紙を患者さんが持参しなくとも MMWIN システム内で検査データが確認できますので、処方薬がどの程度効果があったのか、また副作用などの症状が出ていないかなどの確認をすることができることにも、MMWIN システムのメリットを感じながら活用しております。



管理薬剤師 我妻 俊明 先生

### 2. MMWIN システムの紐付け操作



甲子調剤薬局

患者さんからカードを提示され、MMWIN システムへの紐付け作業も操作マニュアルを参考にしながら行っております。

また業務の妨げにならぬよう患者さまが多いときは、患者さんのIDカードのコピーを取り、時間が空いたときや閉店後などに紐付け作業を行なうよう工夫しております。

### 3. かかりつけ薬剤師と MMWIN の関連性との期待

平成28年4月にスタートした「かかりつけ薬剤師」制度に伴い、検査数値などで得た情報や、今までの診療経過をより細かに把握することの必要性を強く感じております。すべての患者さんのデータを診るのではなく、患者さんの症状により必要に応じてデータを見ることができると利便性を感じます。「かかりつけ薬剤師」にお任せされてる患者さんは、是非 MMWIN への参加をお勧めしたいと思えます。

また今後の地域包括ケアの実現を見据え、宮城県内の診療所・調剤薬局・介護施設すべての施設が加入されることを願っております。

### 編集後記

今回は我妻先生にお話しを伺いました。地域密着の体制による患者さんの良きパートナー、良きアドバイザーとしての役割をスタッフの皆様と共に、強く意識されていることも伝わってきました。MMWIN の利活用が地域包括ケアを推進する柱となり、また皆様のお役にも立てるよう努めて参ります。  
(嵐田)

### ご案内

ユーザーズミーティング開催案内等のご案内をメールで送付しております。MMWIN ご担当者様のメールアドレスの登録をお願いしております。「koho@mmwin.or.jp」まで、施設名とご氏名を明記の上、メールをお願い致します。右記のQRコードからもメールを送付いただけます。

